

彬子女王殿下のテープカットで新刀剣博物館がスタート



去る二月十八日、天候にも恵まれて穏やかな日和の中、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長、以下「日刀保」）による新刀剣博物館のオープニングセレモニーと新築落成記念式典・祝賀会が催されました。本紙特派員として取材してきましたので、報告させていただきます。

当日は彬子女王殿下がご来臨されました。日刀保の役員らがお迎えする中、午前十時三十分、女王殿下がお着きになり、刀剣博物館エントランスにてオープニングのテープカット式が執り行われました。その瞬間、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。セレモニー終了後、女王殿下には落成間もない刀剣博物館をご覧になりました。その後、昼過ぎからは会場を第一ホテル両国「清澄の間」に移し、新刀剣博物館の新築落成記念式典・祝賀会が開催されました。

式典は、引き続き彬子女王殿下のご臨席の中、日刀保名誉顧問である徳川家宗主徳川恒孝氏と第七十九代内閣総理大臣細川護熙氏が登壇され、日刀保各支部の支部長や招待者の方々も加わり開式されました。開式の辞が柴原勤専務理事からあり、続いて酒井会長が日刀保を代表して挨拶されました。彬子女王殿下からは刀剣についてのお言葉を賜りました。次いで、来賓を代表して徳川恒孝氏が祝辞を述べられ、新刀



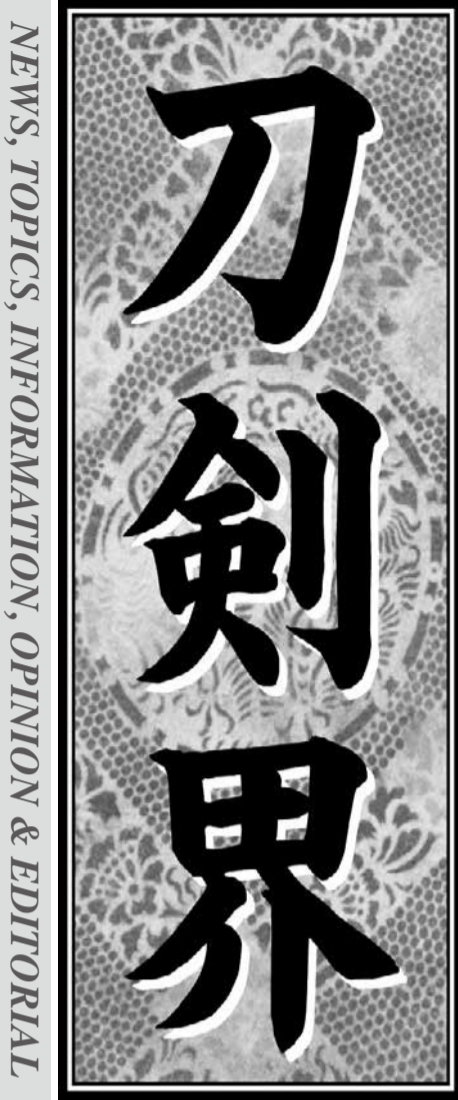
記念式典で挨拶する酒井会長。右は来賓の彬子女王殿下、細川・横・徳川の各氏

剣博物館の設計を担当した株式会社横総合計画事務所の代表取締役・横彦彦氏が、新刀剣博物館のコンセプトなども織り交ぜて挨拶されました。続いて各界からの多数の祝電が披露された後、閉式の辞を志塚徳行常務理事が述べ、新築落成記念式典はつつがなく終了しました。式典終了後、同会場にて祝賀会が開催されました。評議員長の森政雄氏が開会を宣言した後、高村正彦顧問のご発声で乾杯。豪華な和洋の料理とお酒が振る舞われ、祝賀パ

待望の新刀剣博物館がオープン 彬子女王殿下、徳川・細川両名誉顧問を迎え記念式典を開催

「ナイフがスタート。全国から集まった愛刀家・刀職者・刀剣商・都道府県支部役員・博物館関係者らが杯を交わし、刀の将来を願い、親交を深める素晴らしいひとときとなりました。歓談の間には墨田区の伝統芸能のアトラクションも披露され、宴もたけなわのところ、山本亨墨田区長から中締めのご挨拶を頂き、以上をもって十四時三十分、祝賀会は閉会となりました。

祝賀会終了後は、ご参会の多くが、オープンを翌日に控えた新刀剣博物館の内覧に参加されたようです。館内の窓からは緑豊かな日本庭園が見え、一階にはミュージアムショップ・展示情報コーナー、二階には日本刀の審査や展示の企画を行う総務部・学芸部の各室、三階には刀の展示室と屋上庭園などがあります。展示室では「現代刀職展」今に伝わるいしえの技」が開催されており、従来の刀剣博物館の展示室と比べると天井も高く広々として、最新のライティング技術によるディスプレイは展示されている刀をより引き立てて見せる設計になっています。



2018.3.15 No.40
発行人 清水 儀孝
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentoshou.com/

第40号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 木村 義治
佐藤 均 嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正
瀬下 明 土子 民夫 網取 譲一 土肥 富康
服部 暁治 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏
編集顧問/深海 信彦

資格認定事業担当 赤荻 稔 飯田 慶久
伊波 賢一 大平 岳子 大西 康一 木村 義治
佐藤 均 猿田 慎男 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 土子 民夫 網取 譲一
土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行
冥賀 吉也 持田 具宏 吉井 唯夫

全国刀剣商業協同組合は創立から30年を迎えました。そこで「組合30年の歩み」を企画しています。組合の行事や歴史に関わる写真や資料をお持ちでしたら、ぜひご提供をお願いします。



和やかな祝賀会風景

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋
刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円 (郵便切手可)
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式
柳匠堂
柳村宗寿
岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六二二三二二三一九
TEL 〇八六二二三二二三一九
工房 岡山市北区磨屋町七二二
TEL 〇八六一二三三二二三二九
FAX 〇八六一二三三二二三二九

町田久雄
埼玉県秩父市野坂町一十六六一二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四二二三三〇六七
FAX 〇四九四二二三三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二一七一
TEL 〇六一六六三一三二二一〇
TEL 〇六一六六三一三二二一〇
FAX 〇六一六六四四一五四六四

「刀剣評価鑑定士」認定事業の開始に当たって

理事長 清水儀孝

全国刀剣商業協同組合では、一昨年五月十七日の第二十九回通常総会において、新たに資格認定事業(刀剣評価鑑定士)を開始することを満場一致で可決承認しました。わが組合は、定款第一条に「組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を推進し、かつ、その経済的地位の向上を図ること」を目的に掲げています。本事業はまさにこれに合致し、さらに刀剣商の社会的信用と地位の向上を図り、刀剣の普及と発展に寄与していくものでもあります。

すなわち本資格は、刀剣の売買に携わる者に不可欠な知識・技能を明らかにし、その錬成を図りつつ、刀剣の評価・鑑定に必要かつ十分な能力を認定します。その名称は「刀剣評価鑑定士」です。資格には大別して、①法律に基づき、国や国から委託を受けた機関が認定する国家資格、②所轄省庁や大臣が認定した審査基準に基づき、地方自治体や公益法人、民間団体などが試験を行い認定する公的資格、③民間団体や企業が独自の審査基準を設けて認定する民間資格、の三つがあります。

中身について見ると、取得しなければその業務を行うことができない資格や、ライセンスではないが社会的信用度や知名度の高い資格、さらには信頼性や社会的認知度も低く、こんな分野にもあったのかという資格までさまざまです。①と②を合わせると一千、③まで含めると三千以上もあるとされま

す。現在のわが国が「資格社会」と言われる所以です。それでは、私たち刀剣商には仕事の裏付けとなるどんなライセンスと資格があるのでしょうか。まずは古物商許可証です。しかし、古物商とは古物営業法で規定する古物を仕事として売買または交換する業者・個人を指し、取り扱う品物の多様さと相まって、金券ショップやリサイクルショップ、OA機器のレンタル店まで幅広く含みま

す。さらには、○品整理士や○活アアドバイザーを名乗る人々を信用し、代々の家宝が二束三文で持ち去られた例、価値を知らずに家財道具ともなりサイクル業者に任せてしまった例、刀が発見されたが物騒に思っ警察署に処分を依頼した例など、後で聞いて残念な思いに駆られる事例は枚挙に暇がありません。

これは私たち刀剣商の力不足、認知度の低さにも一因があると率直に反省せざるを得ません。全国刀剣商業協同組合は内閣総理大臣に認可され、警察庁の所管する組合です。その信頼性を背景として、刀剣評価鑑定士の認定事業を発展させ、刀剣に対する世の正しい認識を促し、その保存に資していきたいとも考えます。

今から二十二年前の『全刀商』第十四号に、当時の荒勢英一理事長が次のように記しています。「組合が行う評価鑑定は、定款に明記されている認可事業であります。実行すべきものなのです。ただ、当然ながらその方法論については、さまざまに意見があり、検討すべき今後の課題でもありま

しょう。故荒勢元理事長が私たちに遺した宿題への解答が、今ようやく示されようとしています。深海前理事長の下で発足した刀剣評価鑑定士実行委員会は、二十数回の会議を経て、認定試験問題集や資格認定事業規約の作成作業



「刀剣評価鑑定士」公開模擬試験のお知らせ

☆「刀剣評価鑑定士」の認定開始に先立って、公開模擬試験と講習会を実施します。本試験の準備に向けた絶好の機会です。奮ってご参加ください。

時 日：5月17日(木)午後3時～(組合交換会終了後)
会 場：東京美術倶楽部
定 員：50名(定員に達し次第締め切ります)
参加料：無料
参加資格：組合員または賛助会員で古物商許可証を有する方
申し込み：4月30日までに組合事務局に文書にてお申し込みください(FAX可)

最も多く指定されている日本刀が、「刀剣商」を自称するだけで売買できるのかという指摘にも一理あり

一方で、一千年の伝統を有し、国宝・重要文化財に

「刀剣評価鑑定士」試験問題例④

- [問1] 登録を受けた銃砲または刀剣類を移動・運搬・保管委託する場合は、常に登録証を付随しなければならない。○か×か。
[問2] 海外へ銃砲または刀剣類を輸出または持ち出す際の「古美術品輸出鑑査証明」の有効期限は発行日からどれだけか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問3] 盗難または遺失の時から1年を経過しない場合に、古物商が買い受け、または交換した古物のうちに盗品または遺失物があった場合においては、その古物商が当該盗品または遺失物を公の市場において、または同種の物を取り扱う営業者から善意で譲り受けた場合においても、被害者または遺失主は、古物商に対し、これを無償で回復することを求めることができるか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問4] ホームページを利用する古物の取引についての説明で正しいのは、次のうちどれか。
[問5] 象牙製品を取り扱う場合、どこに届け出るか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問6] 朱銘についての正しい記述はどちらですか。次の中から選びなさい。
[問7] 偽作を目的に別の作者の茎(中心)を継ぎ足すことを何と云うか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問8] 次の[]の中から誤りを1つ選びなさい。
[問9] 次の[]の中から誤りを1つ選びなさい。
[問10] 次の[]の中から正しいものを選びなさい。
[問11] 藤代義雄が唱えて知られるところとなった「江戸三作」とは、水心子正秀と源清麿と、もう1人は誰か。次の中から正しいものを選びなさい。
[問12] 槍の寸法は「刃長さ」と言わず「穂長さ」という。穂長さは蟻蝸首の元から切先先端までの長さを言う。○か×か。
[問13] 江戸時代の名工で、「奈良三作」と呼ばれる金工は誰か。次の中から正しいものを選びなさい。
[問14] 刀装具の素材となる四分一とは、主に銅と何の合金か。次の中から正しいものを選びなさい。
[問15] 鐺表の茎(中心)孔を中心として左右に孔が開けられている場合、小柄の櫃孔はどちらか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問16] 拵の鞘で、金属の薄い地板を斜めに巻いた技法を何と云うか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問17] 戦術の変化、武器の進歩、西洋甲冑の影響などの要因により室町時代後期から安土桃山時代にかけて生まれた甲冑を何と云うか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問18] 刀剣は焼入れの際に、一瞬内反りとなった後、本来の反りが生じる。○か×か。
[問19] 白く刃取りをしない刀の研ぎを何と云うか。次の中から正しいものを選びなさい。
[問20] 平成28年1月時点で、重要刀装・刀装具に指定されているのは何点か。次の中から正しいものを選びなさい。

(正解は下段欄外)

をほぼ終え、いよいよ実施の段階に至りました。今後は、警察庁・文化庁・都道府県教育委員会・公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会・一般社団法人甲冑武具研究保存会・全日本刀匠会・美術刀剣

をほぼ終え、いよいよ実施の段階に至りました。今後は、警察庁・文化庁・都道府県教育委員会・公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会・一般社団法人甲冑武具研究保存会・全日本刀匠会・美術刀剣

必ずや不可欠の資格となります。この節目の折に、刀剣業界の未来に向けた画期の事業を何としても成功させなくてはなりません。組合員の皆さん、賛助会員の皆さん、本紙読者の皆さん、絶大な

刀剣・小道具・甲冑武具 飯田高遠堂 代表取締役 飯田慶雄 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33 TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615 http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本 松本 富夫 義行 〒278-0043 千葉県野田市清水199-1 TEL 04-7122-1122 FAX 04-7122-1950 www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐺・小道具・甲冑 日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD. (株)日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1 TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階 ㈱銀座泰文堂 代表 川島貴敏 TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367 http://www.taibundo.com

刀剣 高吉 古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください! 連絡先 090-8845-2222 代表者 高島吉童 東京都北区滝野川7-16-6 TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116 www.premi.co.jp

風向計

其之二十六

深海 信彦

テレビアニメやオンラインゲームで刀が主役の役割を果たして何年になるだろうか。

その後も歴史女子、刀剣女子、そして刀剣検定などがマスコミに取り上げられ、二十年間くらいは刀剣ブームのような現象を来している感がある。刀剣を展示する各地の美術館で行われる講座には、定員の何倍もの受講希望の申し込みがあり、今日に至っても、刀剣への関心は女性を中心として依然根強いものがある。

しかし、その所謂「刀剣ブーム」なるものが、われわれ刀剣商の営業実績に反映されたという話が聞かれないのは何故だろうか。新聞や雑誌、そしてテレビ局は競って刀剣を取り上げようと今も企画を進めているにもかかわらず、である。

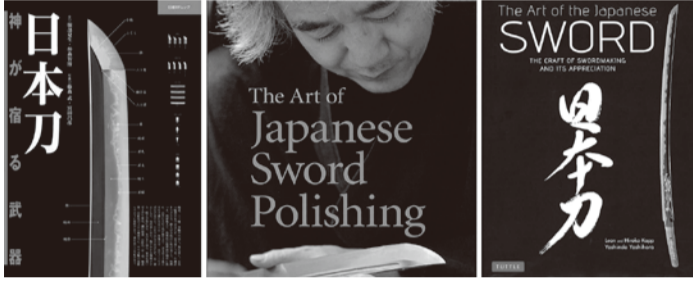
その答えとして考えられるのは、ブームは作り出す側のみがその恩恵を受けられる、ということに尽きるであろう。刀であれ何であれ、大きな営業目的を持って創造的な戦略を展開し、その結果が世の支持を得る現象として表れ、作り出した当事者が投資に見合った利益を得るといふのは経済の原則であり、努力の見返りというべく当たり前のことであろう。

すなわち、今日の「刀剣女子」なる言葉を生み出した現象が、われわれ刀剣商の利益に何ら影響を及ぼさないのは、われわれ刀剣商が今日の現象を喚起させるようなことほもしていないということであろう。昨今のように刀剣がマスコミなどで取り上げられるよう仕掛けた張本人が刀剣商であったならば、そのリターンは刀剣商全員にもたらされるはずであろう。

が、残念ながらそうではない。

それに反して、刀鍛冶や研師等の刀職に携わる人たちの将来に向けての努力には瞳目すべきものがある。例えば、刀匠の吉原義人氏らの作刀活動は、日本の海外向け出版社をはじめとしてアメリカの出版社からも『ジ・アート・オブ・ジャパニーズ・ソード』というタイトルでA4版カラー印刷で出版され、先日アメリカの二時間番組「ヒストリーチャンネル」で特集が組まれるなど、わが国の伝統技術と刀剣鑑賞は広く外国人の知るところとなっている。

また、研師の高岩節夫氏らの『ジャパニーズ・ソード・ポリッシング』の英語版は講談社インターナショナルで発売され、刊されたが既に完売しており、今でも海外からの研師の希望の見学申し込みが絶たないという。



そして最近における刀鍛冶に関する書として、刀匠河内国平氏の作刀理念とその創作活動を記録した『日本刀・神が宿る武器』が挙げられよう。この本は、河内国平氏が「なんで今ごろ、また刀作ってんねん」とよく聞かれることに

答えようとしたもので、「なんで今ごろ刀売ってるの、どんな人が今どき刀を売ろうの?」と聞かれるわれわれ刀剣商にとっても他人事ではない刀剣に関する普通の命題に取り組んだものである。

写真を多用し、文章は大量にはないがページを捲るたびに河内氏の刀剣観とホッ感が余すことなく披露されており、感動的できえある。例を挙げると「刀文には意味がある」「使う気にさせないのが名刀」「正宗は見た目に変わる」「鉄は鍛え抜けば美に至る」「結局頼れるのは勘」「無作為を作為的に表現する」「真似てみても意味がない」「ちょっとしたこと・の重大さ」「親方が下手なら弟子も下手」「技術だけでは到底作れない」等々、何となく意味深い言葉であろうか。そして、現代刀工の宿命ともいべき古刀の写しについては次のように語っている。

「鎌倉時代の刀を作るのなら、鎌倉時代に戻らな本当は無理なや。所詮は人間がやること。その人間は環境にどうしても影響されるもんな」「コピーを作るとい仕事自体はあまり面白くない。自分で、再現してみると、その時代の人たちの生活様式、技法までもが見えてくる。そこに意味があるねん」「今残っている名刀では刀文が華美なものが多い。そういう刀はお宝として置いておこうというもので、実際には使わなかったのと違うかな」

刀を使わない時代になって刃文の美しさが尊ばれるようになり、刀工の技法としては刃文を自由に制御する術が重視されるようになった。だから河内氏は「僕たちが習った技法も江戸時代の製作方法だろう」と。故に最後に行き着く所は美術品としての華麗さではなく、「使える刀」を追求すること古刀の映りの再現につながるという確信を得たと。そして最後

に言う。「僕は、いつ使われてもいように作っているつもりや。試してみたことはないけどな」

史上最も強く、美しい武器を作り続けてきた信念の人の言葉の一つ一つが読む人の心を打ち、そして刀への憧憬を高める。河内氏自身は決して見返りを求めてはいないこの著作が、必ず近い将来、本人や一門、そして作刀業界に多大な好影響を及ぼすことは間違いない。吉原義人氏、高岩節夫氏らも同様に、労を惜しまず不慣れな著作に取り組んだ結果が、刀職の世界全体を高めることになっている。

「何で今ごろ刀を作っているのか」というごく素朴な一般の人の考えの中にあって、今なお現代鍛刀界が輝きを失わず、作刀環境が保たれているのは、こうした作者自身の懸命な努力の賜でもあろう。

翻ってわが刀剣商界を眺め見るに、自らの手で業界を盛り上げようとする努力がいささか不足しているのではなからうか。刀界の好不況その他すべては他力本願で、自分たちでは何一つ道を切り開く努力はしていないようにも思える。

今年には明治百五十年を迎える節目の年で、旧幕時代への関心も高まっている時である。特に資料の多く残っている幕末期に関しては評論も多く、一般の人も江戸時代に入りやすいはずである。新々刀と呼ばれるこの時代の刀はわれわれにとっても現存品が多く、そのほとんどが有銘でわかりやすい。刀の購入への第一歩としては、現代刀に次ぐ立ち入りやすさがある。

エヴァンゲリオンや刀剣乱舞のような予想外の追い風が残っている今こそ、この機に乗じてわれわれ刀剣商主導で、静かながらも独自の刀剣ブームを醸成することはできないものであろうか。われわれの手で作ったものは必ずわれわれの元に帰って来ると思っているが……。

偽造刀剣・鑑定書にご注意!

贋作現代刀を巧妙に偽る手口が発覚

この度、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長、以下「日刀保」)の指摘により、新しい手法で作成された改変鑑定書と偽造刀が流通していることが判明したので、注意をされたい。

本品は、鑑定書を正真正で二通取得し、後に偽物の写真を張り替え、かつ登録証での発覚を防ぐためか正真正と、再申請で取得した登録証を付け替え、正真正の鑑定書に記載されている登録証の情報を書き換えをわざわざ日刀保に依頼するなど、手間がかかっている見かけではまず判別が不可能である。

かつての偽造鑑定書問題では業界の信頼が大いに傷つけられ、業者、愛刀家、そして日刀保とすべの関係者が大きく損失を被った。今回もその二の舞にならないように、早急な対応が必要である。

●本件の発覚について

資料にある通り、本作には本物の鑑定書が付けられている。日刀保の説明によると、本作は、まず平成二十五年八月に真作で保存鑑定書を取り、平成二十六年七月に再度同作で保存鑑定書を取得、平成二十六年九月二十五日に大阪府教育委員会再度の登録証を取得、その後、この登録証を正真正作に添えて鑑定書の登録証番号書き換えの依頼が日刀保にあったというのである。

正真正は偽造刀で取得した登録証を添えて平成二十七年五月の交換会に出品され、某刀剣商が購入。偽物は二枚目の鑑定書の写真を偽物の写真に張り替え、正真正の登録証を添えて平成二十八年十月の交換会に出品された。これはおかしいと前記刀剣商が購入し、日刀保に確認したところ事態が発覚した。

現在、日刀保では弁護士に委嘱して調査を進めており、「業界としても自浄作用を働かせるべし」との指示を受けている。

●今回の偽物流通における問題点

①現代刀の偽造品に対する登録証の発行
今回の事件において、近年製作された昭和三十五年銘の高橋貞次の偽物が製作され、それに新規で登録証が発行されてしまったことがまず問題

である。確実に登録証が存在した現代刀には本来、全国照会した上で再発行が行われ、旧登録証は失効するはずであるが、今回は正真正の登録証が生きたまま偽物にも登録証が発行されている。

②登録証をすり替えた上での販売は銃刀法違反
前記のように、本作は意図的に正真正と偽造刀を入れ替えて販売している。これは明確な銃刀法違反であるので、認識した上での販売は警察が捜査すべき問題であると思われる。

本品は、製作承認番号が添えられた現地発行の登録証でなければおかしいという私たちの常識の盲点を突く手法である。現代刀の偽物を見分けるには今後、登録証が入れ替えられたものかもしれないという認識を持つことが専門家にも必要であると思われるし、煩わしく迷惑である。

③鑑定書改造の巧妙さと手間のかけ方
本作は本物の鑑定書の写真を張り替えたものであるが、これは他の刀でもたやすく流用できる手法である。また、現物からでは日刀保に持ち込んで調査してもらわなければ看破はきわめて困難な代物であり、悪質である。

また日刀保でも、認定書の原簿の確認に加え、証書の真偽の確認までするに膨大な手間を要する。業者間であれば無償返還で解決される問題であるが、お客さまに渡って発覚した場合は取り返しのつかない信用問題に発展する。何より愛刀家が被害を被り、美術刀剣全般の信用破綻により未来のお客さまも離れてしまうことは業界にとって致命的である。

業者間での周知徹底と、一般の愛刀家へのお知らせ、教育委員会への報告や日刀保との協力など、撲滅に向けて当組合としても最大限の努力をしていく所存である。

高岩節夫氏に組合から感謝状を贈る プーチン大統領から安倍総理に贈られた太刀を修復

昨年第三十回「大刀剣市」に安倍内閣総理大臣へロシアのプーチン大統領から贈られた太刀をお借りし、重文室にて一般公開したことは、本紙前号で紹介しました。

本刀は、製作された当時から衛府太刀拵に収まっていたためか、小さな錆とヒゲが数カ所確認できました。日本の工芸美術の代表と

も言える日本刀に従事する組合として、また内閣総理大臣認可の組合として、最良の状態でお返ししたいと願い、許可をいただき、修復を行うこととしました。

白鞘の新規製作は新宿区在住の水野美行さんへ依頼したところ、取り掛かっていた仕事を中断し、早急に仕上げてくださいました。



清水理事長から感謝状が贈られた高岩氏(右)

その後、研磨は葛飾区在住で同区無形文化財保持者の研師、高岩節夫さんをお願いしました。高岩さんも本刀の研磨を最優先していただき、無事に修復を完了、十二月十一日に総理官邸へお伺いし、安倍総理にお返しすることができました。

高岩さんには部分的な錆取りとヒゲ取りを依頼しましたが、多く

の名刀を研磨してきた経験から、この太刀は大変良くできており、高い評価ができるもので、部分的な錆び研ぎでなく刀身全体を研磨した方が良いと判断され、その上無償で研いでいただきました。そのご厚意に対して、組合からは感謝状を贈らせていただくこととしました。

二月六日、組合を代表して清水理事長と筆者が高岩さんのご自宅へお伺いし、感謝の意をお伝えしました。

「私は長く刀剣に携わらせていただきながら、昨年、古希を迎えることができました。節目の年に、このような貴重な刀を研ぐ機会をいただいたことは大変な名誉であり、自身の研磨技術がどの位置まで来ているのか、自らと対話しながら仕事に取り組みました」と話されました。

このような点に重点を置いて研

がれたかもお尋ねしました。「昭和初期ごろの研磨は、地と刃のコントラストをあまり強調せずに研いでいます。この太刀は地鉄がすべし良く、地沸が美しくかつたので、地沸を引き立たせ、肌を出すことに留意しました。刀匠は鎌倉時代の刀を目標に、鍛錬に注意を払っています。その地鉄に近づくと、私たち研師も研いでいかなければなりません。拭いにしても、身幅の狭めの太刀ですから地を幾分黒くすることで、刃が引き立つように心配りました。さらに、元の刃が低く、切先に行くに従って少しずつ深くなるので、焼刃通りの刃取りでは身幅が狭くなる切先が、重く感じられてしまいます。そのため、元の低い刃の刃取りをやや深めにし、先に行くに従って控えめに拾っていくようにしました」

研ぎに入る前に研ぎ上がりを想定した熟練者ならではの判断で、昭和天皇即位の礼の際に使用された太刀が美しく甦りました。

「登録証問題」を考える 13

事例 22

登録担当者「警察へ行ってきた」「私「えっ、警察へですか!?!」登録担当者はい、警察へです」「今から十年ほど前であろうか。登録証の不備があった際に、東京都の銃砲刀剣類登録事務担当者に言われた言葉である。「登録証の不備」と言われてもなお、信じられなかった。

「この登録証には偽臭はない」「そう思われるような登録証、それも「昭和26年3月31日東京都登録」という場合でも、念のために問い合わせると、まるで内容が合わないというケースが、ごたまにある。

登録担当者「一致しませんねー。一致するのは……種別だけのようです」

私「どこが違うのでしょうか」

登録担当者「申し訳ございませんが、それはお答えできません」諦めのつかない私が、担当者の指示に従い、登録証のコピーをラックシミリで送信もしくは郵送したところ、後日、電話口の担当者「口から発せられたのが冒頭の言葉である。」

「警察へ行ってください。事件性があるかないか、調べる必要がありますので」

こうなるとうとうしよもなかつた。警察へ行け、と言われても行って何をどう説明すればいいのか、皆目わからないからである。

私「お客さま、実はお買い受けできないことになりました。理由はこれこれ、こういうこと……」

お客さま「……困ったなあ。僕には刀の趣味はないし……」

刀はこの後、お客さまのところですとそのまま保管される、もしくは、不備の登録証が付帯したまま持ち主を転々として彷徨い続けるか、どちらかであった。刀もその刀をたまたま父の遺品として引き継いだ人も不幸である。

さて、過日、これと似たようなことがあった。

「刀を処分したいのです。遺品です」

お持ちいただいた御刀は、静岡県昭和五十二年登録の無銘で、了戒に極められた、なかなかの名刀であった。登録証には不審な感じはなかった。「長さ七六・八センチメートル」の記載がわずかに消えかかっているように見えること、「無銘」の文字があまり上手ではないな、という程度で、全く疑念を抱かなかった。

ところが、である。これを静岡県教育委員会に電話して確認してみると、「全く一致しない」という回答であった。種別すら合っていないのである。

「どうしたらいいのでしょうか?」との問いに、教育委員会担当者は「現物確認をいたしましゅう。お住まいはどちらでしょうか」「東京です」「では東京都に資料を送って、東京都で現物確認を受けてください。それで判断します」

一連のやり取りを経て、東京都で現物確認をした。静岡県の登録証原簿の写しと現物の刀を照合するのである。結果は「一致せず」であった。それを受けて、静岡県は「一致しません。静岡県登録の刀とは認められません」という結論を出し、「あとは東京都の指示に従ってください」とのことであった。

「また警察へ行ってください、かな」と思ったが、東京都から

NEWS & TOPICS 伯耆安綱の顕彰へ鳥取県と春日大社が連携

春日大社(奈良市)は二月二十日、所蔵する太刀の一振を研磨

した結果、日本刀の最初期である平安時代末期ごろに作られた古

伯耆物と判明した、と発表

した。無銘だが、刃長八二・四センチと長寸で、ほぼ生の状態であるとい

う。昭和十四年に大社宝庫の解体修理をした際、天井裏から発見された太刀

十二振のうちの一振。平成二十七年から順次、重

要無形文化財保持者の本阿彌光洲師に研磨を依頼

しており、今回の太刀が四振目だったという。

この太刀は、大社の創建千二百五十年を記念し



古伯耆物を前に花山院宮司(右)から説明を受ける平井知事(写真提供/鳥取県)

は、神社界として美術品扱いでき

た「伝説の名刀たち」で三月二十六日まで公開されている。

その後、古伯耆物を巡っては新たな動きがあった。二月十四日、鳥取県の平井伸治知事が春日大社を訪問し、花山院弘匡宮司と会談、伯耆国の刀工安綱らを顕彰することを提案した。花山院宮司もこれに賛同した。

鳥取県は伯耆国「大山開山千三百年祭」の一環として安綱ゆかりの刀展示を今夏に予定。酒吞童子の首を切ったという伝承がある国宝「童子切」(東京国立博物館所蔵)で名高い安綱に焦点を当てることとしている。

一方、神殿に奉安された神宝は、神社界として美術品扱いでき

「お客さま……困ったなあ。僕には刀の趣味はないし……」

「警察へ行ってください。事件性があるかないか、調べる必要がありますので」

こうなるとうとうしよもなかつた。警察へ行け、と言われても行って何をどう説明すればいいのか、皆目わからないからである。

私「お客さま、実はお買い受けできないことになりました。理由はこれこれ、こういうこと……」

お客さま「……困ったなあ。僕には刀の趣味はないし……」

刀はこの後、お客さまのところですとそのまま保管される、もしくは、不備の登録証が付帯したまま持ち主を転々として彷徨い続けるか、どちらかであった。刀もその刀をたまたま父の遺品として引き継いだ人も不幸である。

さて、過日、これと似たようなことがあった。

「刀を処分したいのです。遺品です」

お持ちいただいた御刀は、静岡県昭和五十二年登録の無銘で、了戒に極められた、なかなかの名刀であった。登録証には不審な感じはなかった。「長さ七六・八センチメートル」の記載がわずかに消えかかっているように見えること、「無銘」の文字があまり上手ではないな、という程度で、全く疑念を抱かなかった。

ところが、である。これを静岡県教育委員会に電話して確認してみると、「全く一致しない」という回答であった。種別すら合っていないのである。

「どうしたらいいのでしょうか?」との問いに、教育委員会担当者は「現物確認をいたしましゅう。お住まいはどちらでしょうか」「東京です」「では東京都に資料を送って、東京都で現物確認を受けてください。それで判断します」

一連のやり取りを経て、東京都で現物確認をした。静岡県の登録証原簿の写しと現物の刀を照合するのである。結果は「一致せず」であった。それを受けて、静岡県は「一致しません。静岡県登録の刀とは認められません」という結論を出し、「あとは東京都の指示に従ってください」とのことであった。

「また警察へ行ってください、かな」と思ったが、東京都から

は「全国照会をして調査の後、しかるべく判断をします」ということであった。

全国照会―それは東京都が刃長・反り・銘文・目釘穴の数・刃文の形状などを書いたものを全国の教育委員会の銃砲刀剣類登録担当者に送付し、該当する作がないかどうか調べてもらう、という方法である。これで出れば、その県で登録証を再交付という段となる。しかし時間がかかる。また、そんな都合よく一致するものだろうか。

今日か今日か、と連絡を待っていると、案の定、一致しなかった。東京都は「一致しませんでした」との回答を封書で送付してきた。

「今度こそ、警察へ行ってください、お願い、だろ」とケンナリしていると、手紙にまた続きがあることに気づいた。「東京都で新規登録しますの……」

申請書・旧登録証・登録料を現金書留で送付しければ、東京都で新しい登録証を郵送する、という。かつては警察へ行ってきたさいの一点張りであった東京都も今は、現状に即して柔軟に対応するようになってきているのである。ほっとして思わず言葉が出てきました。「ありがとうございます。これで、刀が救われました!」

刀にも所有者にも罪はないのである。今後も現状に即して、可能な限り、現実的な対応をしていただきたいと、切に切に望む次第である。(登録証問題研究会)

古銭 切手・刀剣 売買 評価 鑑定
株城南堂古美術店
 代表
田中 勝憲
 〒153-0051 東京都目黒区上目黒四-3-1-10
 TEL 03-371-0167 03-371-0166
 03-371-0166 03-371-0166
 FAX 03-371-0167 03-371-0167

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

刀剣商リレー訪問 27

三木希美さん(刀剣サロン正宗・鐔の都)

ジョイント・ベンチャーという新たな発想

まず初めに、この度私のお店をご紹介する機会を与えてくださった皆さまに心から感謝を申し上げます。亡父(三木義和)の事業を継承することになってからというもの、長い歴史を生き抜いてきた偉大な日本刀と、それに携わってこれた一流の事業者さまならびに職方の皆さま方を前に、ずっと自信が

ない、私には無理と思いつく中で、「自分にできることは何だろうか」と模索し続け、「鐔の都」は誕生しました。母を早くに亡くし、多感な時期の子供たちと向き合い、病身の父を看ながらの事業継承は思いの外大変で、皆さまの寛大な思いやりがなければ今日までやってこれなかった、というのが正直な思いです。あらためてこの場をお借りして御礼を申し上げます。



笑顔でお客様をお迎えする三木希美さん

息子の成長を機に慣れ親しんだ大阪を離れ、倉敷刀剣美術館のそばに店舗を移転し、武士の表道具である刀剣はお任せして、小道具をメインに扱う好機を授

交換会紹介 東京刀剣倶楽部準大会を開催

二月十二日、東京美術倶楽部において東京刀剣倶楽部の準大会が開催された。

当日は八十名近くの会員が参加。出品を拝見すると、名品が多いのに驚かされた。また、その名品の価格にも驚かされた。例えば、新刀の人気刀工の特別保存刀剣が、普通の最上作刀工の重要刀剣を上回る値段で取引されていた。

入札では、無銘の特別重要刀剣が出品され、その価格の高さに驚かされた。どこかで安心して買いたい気持ちもありました。刀装具も重要指定品や日ごろ拝見することがないような名品が、やはり高値で取引されていました。

良い品物の価格は変動してないんだなあと思われた、そんな大会でした。品数は日ごとと変わらずとも、出来高は倍という中身の濃い大会でもありました。最後に、東京刀剣倶楽部を差別している若手の人たちの話を聞いています。 「今度の大会の会費、いくらにするか。」 「もうだなあ、お弁当の値段が五千四百円だから、五千円でいいんじゃないか。」 「じゃ、そうしよう。」 こういった透明性もまた、東京刀剣倶楽部が栄える原因なのですよ。(持田真宏)

かったのは、そのことを象徴する大きな出来事となりました。子供たちの進路の動向を見て私の代で終わらせようと考えておりましたが、美術館とのジョイント・ベンチャーという新しい発想を提示していただけたおかげで、次世代に繋ぐことができ、またビジネススタイルの面では、美術館のおもてなしブースとしての「カフェ併設」が可能となったことで、老若男女を問わず、幅広い層の皆さまに刀装具の世界を紹介でき、理解を深めていただけていることは、私の至上の喜びとなっております。

「おじいちゃんやお母さんの仕事ってようわからんわ」と言っていた子供たちも、今では良き理解者となって叱咤激励してくれています。二代目事業者として私自身、ヨチヨチ歩きから間をばしよって、じきにヨボヨボ歩きとなりそうだが、常に伴走者なくしては歩けない状態ではあります。

戦国武将・毛利元就の「三本の矢」という有名な逸話がございませぬ。「一本の矢はすぐに折れてしまふけれど、三本集まると簡単に折れない」という理を述べたお話です。私のような小さな事業者へも取りこぼすことなく声を掛けてくださり、見守ってくださる皆さまの温かい配慮の、誠にありがたいその姿勢は、刀剣界をますます一つにして強靱な矢となることを示唆しているように思えてなりません。

私が出会った珍品・逸品 清水儀孝

片切彫四分一馬図香合 銘 芳州叟勝珉刀

香合とは、お茶室で香を焚くための、お香を入れる器を言います。茶室に入席する人の精神、そして茶室を清める意味で使われます。 海野勝珉は、刀装具以外に「蘭陵王」「還城楽」「布袋片切彫手板」など多くの名品を世に送り出しています。 この香合は、勝珉が芳州叟と号した晩年の作で、小さな画面の中に片切彫で馬を表し、目標とした横谷宗珉に劣らぬ繊細で優れた力量を感じさせる一品です。

態ではありますが、「しゃーないな」と、どこからともなく声が聞こえてくるようで、情けなくもありがたい思いで日々を過ごしております。

話を現代に戻そう。最近では自衛隊が海外派遣されたことが何度かあったが、その際に司令官として現地に赴かれた方の話を聞いたことがある。その方は、親戚からお守りとして頂いた日本刀を私物として現地に携行されたそうだが、実質の紛争地域で、司令官である自分の首に対して何億円という法外な懸賞金が懸けられていることを知り、重圧と恐怖から精神的に参ってしまったことも幾度となくあったという。

しかし、夜、ベースキャンプで携行した日本刀を独り静かに見つめていると、恐怖に取りつかれ正しい判断を失った、ねじくれた心がずっと正常に戻るのを感じ、翌日は司令官として指揮が執れたそうである。 太平洋戦争終結後、旧日本軍の兵士がPTSDになったという話はあまり聞かない。それは、日本刀自体に精神のゆがみを治してくれるような効き目(?)があることを、日本軍が知っていたためなのではないかと思う。 武將や明治・大正の国政を担う政治家が刀を多く集めたのは、愛好家として収集するのは無論のこと、明日を知らぬ世情を前にして、判断力を鈍らせないためでもあったのだろう。自らの決断に全てが懸かっている状況でどう舵取りをするべきか見極めるため、独り日本刀と対峙していたのではないだろうか。「快刀乱麻を断つ」と言うが、素直に、前向きに事に当たる気力と決断力を与えてくれる、そんな力が日本刀にはあると思える。

始まり、武士が誕生し、武家政権の樹立、戦乱の時代、徳川の平和、幕末から維新までの激動の時代、帝国の歩みと二度の大戦……という長く険しい道のりには、常に日本刀が寄り添ってきた。だからこそ、日本刀は、「古美術品」として担ぎ出す以前に、一つの頂点を極めたものである。 一つの時代も技術の粋を結集させて生み出される、今も正に生き続けている刀が「骨董品」などといった儼の生えたジャンルに据え置かれることを、認めようとはけしと思えない。(今でも愛刀家の中には、政治家・医師・弁護士・会社経営者など、重責を担いストレスの強くなる職業の方も多くいらっしゃるか、その方々は、刀を見ていると癒されてまた明日も頑張ろうとパワーをもらえると口々におっしゃる) 日本刀が持つこのような強靱な精神性と包容力を、この平和な時代の中でもゆめゆめ忘れたいことなくありたいものだ。ただの古美術商・骨董商ではなく、日本文化の精神を伝える日本刀を商う「刀剣商」であるということの意義を問い直し、一般の美術商に紛れることなく、その上に位置することができ、真の刀剣商を目指す覚悟があるのかどうか自らに今一度問いかけたい。

日本軍の、たとえ最後の兵になろうとも日本刀をかざして突撃をしてくる姿は、米軍に強い恐怖心を抱かせたらしい。その証拠に、GHQが進駐してきて真っ先に行ったのが刀剣類の接収であった。銃があれば日本刀など全く無力でありながら「刀狩り」を行った理由は、日本刀が武器として脅威だったためではなく、刀を携えた日本人の腹の据わった姿が、米軍に威圧感と強烈な印象を残していたためであろう。

て、戦争を知らないこの平和な時代に、生死をかけて事に当たることなどまずあり得ない。ゆえに、日本刀の本当のありがたみ、本当の価値を理解することは、ともしることもはや不可能なかもしれない。かつて名刀は公家・武家などごく一部の特権階級にしか許されず、門外不出の「伝家の宝刀」と大切に保存されてきた刀剣も、美術品として売買されるようになって久しい。連綿と続く歴史に裏打ちされ、日本刀に高い美術的価値を認めるのは当然のことだとは思ふ。しかしそれ以上に、日本刀の美しい姿や澄んだ地鉄を見ていると、単なる武器とも美術品とも言い難い、ある種の真価とも言うべきものが伝わってくるのを諸氏も感じたことがあるのではないだろうか。 その時に日本刀の存在が、戦場という極限の状況にあって、持つ者の精神的な支柱となり、ある時は心を奮い立たせ、ある時は心を慰め平静を保たせたのだと実感させられるのだ。このような感覚は到底「美術品」「武器」という枠内に収まるものではないと私は考える。 本来、日本刀それ自体が、日本の文化や歴史と密接に絡み合いながら、その一翼を担ってきたものなのである。平安時代の公家から

アオバ企画株 高橋 一

〒113-0012 墨田区大平四一九二一三〇八 TEL 03-3621-1111 FAX 03-3621-1151 メール aobakk@pb8.so-net.ne.jp

刀 剣 界

ブック・レビュー BOOK REVIEW

『幕末武士の京都グルメ日記』伊庭八郎征西日記を読む

山村竜也 著 幻冬舎新書 定価七八〇円(税別)

何とも軽薄なタイトルの新書だと思っただけ、副題に「伊庭八郎征西日記」うんぬんとある。伊庭八郎と言え、隻腕のラストサムライとして知られている、あの伊庭八郎が。

伊庭八郎秀頼は、幕臣伊庭軍兵衛秀業の長男として弘化元年(一八四四)に誕生した。秀業は、下谷和泉橋通に稽古場を構える心形刀流剣術の八代目。八郎は心形刀流の修行に励み、剣才花開き「伊庭の小天狗」と異名を取るほどの剣客に成長した。

そんな八郎が、一冊の日記を書き残している。日記は元治元年(一八六四)の正月に徳川家茂が



幕末武士の京都グルメ日記 伊庭八郎征西日記を読む 山村竜也

上落した際、二十一歳の八郎が講武所剣術方として警備の一翼を担って随行したことから始まり、同年六月に江戸への帰途に就くところまでが書かれている。

注目すべきなのはその内容で、「西征日記」という勇ましいタイトルとは裏腹に、今日どこに観光に行きた、今日何を食べたという、ごく日常的な行動が記されているのだ。例えば、一月二十一日「澤庵の鰻は都一番だ」とか、二月二十八日は「高野山(見物)へ行った。思いのほか粗末だった」とか、「鞍馬山に参詣した。義経の青、同じく太刀、弁慶の太刀を見物した。牛若丸の稽古場の天狗杉、それから貴船へ参詣した」とか、二月二十八日「御室仁和寺、嵯峨野の釈迦如来へ参詣、それから愛宕山に登る」とか、小生たちと同じように京都を楽しんでいる。

そんな中、三月六日「父上はお仲間のご用のため夜分に男谷先生の所へ行かれた」とあるのは、直心影流の剣客・男谷下総守精一郎で、刀剣商であるわれわれの間では源清麿のスポンサーとしてよく知られている。当時は講武所奉行並になり、講武所内で重きをなしていた。享年六十七。

そして、六月に江戸へ帰る際、琵琶湖が増水して川止めになった時に池田屋事件があり、呼び戻されるといったこともあった。八郎の暢気な日記を読んでいると、つい忘れそうになるが、この時期京都は幕末の動乱期。八郎はなぜかそういう政治的なことに関わらないで済んでいたが、ついに歴史の大波が八郎の元に押し寄せる。その後の伊庭八郎は、翌慶応元年(一八六五)五月、將軍家茂が長州征伐のために上洛するのに従行。その後、家茂が急死、慶喜が將軍となり、慶応三年十月に大政奉還がなされると、同四年正月三日、ついに戊辰戦争となる。

たこの日、敵の銃弾が甲冑の上から胸に当たり、衝撃で吐血し卒倒する。この過酷な体験以後の八郎は、「西征日記」を書いた同一人物とは思えないほど激烈な戦士になる。江戸に撤退の三月、恭順を決めた遊撃隊から脱走、上総請西藩主林忠崇(維新後たまた一人華族になれなかった大名)の軍と合流し、相州箱根の関を押さえるよう進軍するも、戦闘の最中、左腕を切断される重傷を負う。それでも八郎の戦意は衰えず、箱館の旧幕府軍に加わり、遊撃隊長を務め、最後まで幕臣の意地を貫こうとした八郎であったが、新政府軍との戦闘で砲弾を受け、五月十二日に息を引き取る。旧幕府軍も同十八日に降伏。徳川幕府は歴史の幕を閉じた。それにしても、戊辰戦争は男一人の人生をこんなにも変えてしまったのかと思うと、誠に恐ろしい。

稿 寄

所有者変更届はご自身で、できれば縦書きで

刀剣愛好家 鈴木光寿

工場建設業界に長く身を置いていた私にとって、お客さまに竣工工場をお渡しする時に所有権の移転という手続き・行事があります。所有権の移転は、お客さま・建設業者双方にとって喜びであります。幾星霜と伝わった刀剣と同列にはできませんが、ご縁があってお刀を入手した際は自身で所有者変更届を提出することに喜びを感じるとともに、このお刀をしっかりと後世に引き継ぐという責任を感じます。貴組合が作成された「やさしいかな」の巻末に記載されている教育委員会一覧から該当す

る教育委員会を探し、変更届を作成します。都道府県により担当部署の名称が異なるのはともかく、変更届の様式に縦横があるのはどうかと思えます。以前調べたところ、ほとんどの道府県教育委員会は縦ですが、貴組合、東京・新潟・愛知・香川・大分の各教育委員会の様式は横でした。

刀剣の世界は折紙、鞘書、鑑定書、登録証もすべて縦文化です。で、変更届も縦に統一されることを望みます。縦の方が銘の雰囲気も伝わり、誤記も減ると思います。

変更届出に關しては銃砲刀剣類所持等取締法第十七条に詳細があり、その3項によれば届出を受理した都道府県教育委員会は、その旨を刀剣所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならずとあります。仮に私が正宗を所有した場合、教育委員会的には「正宗の所有者は鈴木になった」、公安委員会的には「鈴木は正宗という刀を所有している」となるでしょう。適正な変更届がないと、両委員会の記録が更新されませんので、新所有者にはご自身による二十日以内の変更届を期待するものです。下手をすると、鈴木はたかさんの刀を所有していることになりかねません。

シローちゃんの健脚商売 ⑬

ベルギー通信 編

寒い！シベリアからマイナス二十度の寒気が南下し、日本列島を覆っている。夏の暑い日もかったるいが、寒いのも着替えてサイクリングに出る気が起らない。そんな時、俺の元にベルギーから自転車クラブチームの活動報告が届いた。今日はブルブル震える健脚商売でなく、職場で暖を取りながらこれを紹介し、お茶を濁す。報告主はリュック・タールマンさん。アーキテクト(建築設計士)として考古学者であり、甲冑愛好家として俺とつながっているが、サイクリストであることを知ったのは最近だ。何と自らチームオーナー兼スポンサーとなり、自分でもペダルを回す。チーム名はWTC

リュック・タールマンさん(左) 遮るものが全くない美しい田園風景、市街地に整備される自転車専用レーン。トム・ポーターら著名選手と並ぶリュックさん、まるで欧州のレースの取材風景のよう。三月初めにはまず五十キロのサイクリングに出る予定で心待ちとか。おい、せっかくなんだからもう少し走れよ……そんな写真を送ってもらった。



黒地に緑のオフセットストラップのジャージはタールマン・アーキテクトのロゴ入り。それを着たメンバーたちがうらやましい。おい、そのジャージ、俺にも分けてくれよ。サイズはSだぞ。日本製甲冑愛好家としては、ほかの外国人の皆さんと同じように早乙女鉢や、鉄錆地目ノ下頬など工芸性の高いものからスタート。しかし、今は中世の機能と美が両立したものに興味の対象が移りつつある様子で、第二段階に入った。彼の友人である日本在住のオランダ人の甲冑と関連資料の愛好家、ヨーン・セウさんの影響もあるかもしれない。こんなリュックさんが俺には頼もしく思える。おい、飽きたものを俺に売ってよ。その時は安くね。(網取譲一)

組合こよみ(平成30年1~2月)

- 1月15日 清水理事長・嶋田専務理事が刀剣評価査定のため(公財)日本美術刀剣保存協会を訪問
- 8日 銀座刀剣倶楽部会場において『刀剣界』第39号編集委員会を開催(再校)。出席者、清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・赤坂監事・深海顧問・土子氏
- 16日 全刀会終了後、東京美術倶楽部において『刀剣界』第40号編集委員会を開催(企画)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・嶋田専務理事(ほか役員・組合員多数が出席)・網取常務理事・大平理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・赤坂監事・深海顧問・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加52名、出来高12,787,500円
- 18日 刀剣博物館新築落成記念式典・祝賀会が第一ホテル両国において開催され、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事(ほか役員・組合員多数が出席)・網取常務理事・大平理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・赤坂監事・深海顧問・土子氏
- 25日 産経新聞社・ジャパンフォワード推進機構を清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事が訪問、海外向け広告の件につき関根氏と打ち合わせ
- 2月6日 高岩節夫氏表彰の件で同氏宅を清水理事長・嶋田専務理事が訪問
- 16日 全刀会終了後、東京美術倶楽部において『刀剣界』第40号編集委員会(初校)・刀剣評価鑑定士実行委員会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・佐藤常務理事・大平理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・深海顧問・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部において第7回理事会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・佐藤常務理事・網取常務理事・大平理事・木村理事・猿田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・吉井理事・赤坂監事・大西監事
- 26日 清水理事長・嶋田専務理事が刀剣評価査定のため(公財)日本美術刀剣保存協会を訪問

日本刀の 江戸屋 名品・名刀を販売

店主 小暮 昇一

〒529-1315 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11
TEL 0749-14212736
携帯 090-1316217641
http://www.goushuyahanontou.com



WTC オイセルジェムの皆さん

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

イベント・レポート

高崎高島屋アートギャラリー

「刀工 宮入小左衛門行平展」を開催

去る平成一月三十日から二月六日まで、高崎高島屋五階アートギャラリーにて「刀工 宮入小左衛門行平展」が開催されました。高崎高島屋での二度目の開催となる今回も、多くのお客さまにご来場いただきました。最新作を展示販売する中で、ギャラリートークのある二月三日は特に会場も賑わい、用意されていた席を途中でさらに追加するほどでした。

ギャラリートークでは、満場のお客さまの聞き入る中、宮入小左衛門行平師が作り出す上での意識や、名刀について、また現代の弟子事情など、多岐にわたる話題に

ついでの話が繰り返されました。その中でも「古名刀をまるまる再現するのではなく、今ある素材と今ある技術で古名刀の中の「美しいと思う部分」を汲み取って表現する」という言葉が特に私の心に残りました。

日本刀が実用の道具でなくなつた現代、それでも日本刀を作る刀鍛冶たちは人それぞれ本心にさまざまな理念を持って作りしています。そんな中で、宮入小左衛門行平伝ともいべき作風はその理念から生まれているのだなど、深く納得しました。ギャラリートークの最後には、質疑応答の時間もあ



宮入小左衛門行平氏のギャラリートーク風景

ました。刀剣の入札鑑定でも「同然」というくらいで、同じ師の元で修業しているわけですので、現代刀全体の中で見ればもちろんある程度似ている作風であるわけですが、それでも並べてみれば歴然の差があり、技術や経験として理念の差もさることながら、ギャラリートークの中にあつた師の言葉を借りれば、「名刀の解釈の仕方」の違いによるものも大きいのかと認識を深めた次第です。

最後になりますが、多くの入々に作品を見ていただき、そして実際にお客さまとお話しさせていただけるこのような機会に感謝しつつ、ご来場いただきました皆さまに感謝申し上げます。(刀工 根津秀平)

徳川ミュージアム「刀剣プロジェクト成果展Ⅱ」

鮮明な乱れ映りと華やかな刃文が蘇った「燭台切光忠」 関東大震災で被災した水戸徳川家の名刀「燭台切光忠」の再現作が茨城県水戸市にある徳川ミュージアムにおいて一月二十日から公開展示されました(四月八日まで)。

燭台切光忠は女性に人気のオンラインゲーム「刀剣乱舞(ONLINE)」に擬人化したキャラクター(刀剣男士)として登場し、高い人気を得ています。

本刀の来歴は諸説ありますが、水戸徳川家の刀剣台帳「武庫刀纂」によると、仙台藩主の伊達政宗の近臣の一人が罪を犯し燭台の陰に隠れていたところ、政宗がこれを燭台もろとも切り倒したとの伝承に由来します。徳川光圀が幼年のころ、政宗の邸宅にて刀を身近に置きながら政宗本人から燭台切のことを語り聞かされた。光圀はこの刀を欲しますが、お気に入り品だからと一度は断られるものの、最後は刀を頂いて帰ったと伝えられています。



関東大震災で被災した燭台切光忠(右)と宮入法廣刀匠の再現作(写真提供/徳川ミュージアム)

大正十二年(一九二二)の関東大震災による火災で、燭台切光忠は他の多くの名刀とともに焼失してしまいました。全体が焼けて黒くなっていますが、往時の刀姿を残し、刀身の表面はきれいでした。茎には火事の高熱で溶けた金銀が輝いていました。

水戸徳川家を代表する兎手柏包「プロジェクト」は平成二十八年に始動し、その歴史的価値を明らかにし、現代刀匠が鍛冶することによって、伝統文化を守り、学び伝えることを目標としています。

兎手柏包永は月山貞利刀匠が依頼され、昨年五月に写しを製作されました。この度、燭台切光忠の写しを完成された宮入法廣刀匠は、人間国宝であった隅谷正峯師の弟子で、備前伝の作風を得意とし長野県無形文化財保持者に認定されています。平成二十二年には長船景光写しの短刀で新作名刀展正崇賞を受賞しました。

紀伊国屋 代表 松浦孝子 刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ 群馬県伊勢崎市連取町一八三六一 TEL 〇二七〇二六〇七七八 FAX 〇二七〇二六〇八七八

NEWS & TOPICS

「お守り刀展」会場は初の林原美術館

第十二回「お守り刀展」は二月六日(火)〜三月二十五日(日)、林原美術館(岡山市北区丸の内二七二五)〇八六二二二二一七三(三)で開催されている。その初日、同美術館において授賞式が執り行われた。受賞者は次の通り。

- 三席・林原美術館館長 賞 久保善博
四席・全日本刀匠会賞 藤澤良吉
佳作 木村光宏
(刀身の部)
一席・岡山県知事賞 上山陽三
二席・坂城町長賞加 藤澤津雄
三席・熊本県教育委員会賞 月山一郎
四席・テレビせとうち賞 根津啓
五席・熊本放送賞 木村光宏
六席・全日本刀匠会賞 河内一平
七席・全日本刀匠会賞 久保善博
八席・全日本刀匠会賞 松葉一路
(外装の部)
一席・熊本県知事賞 藤澤良吉
二席・岡山県教育長賞 久保善博
三席・島田美術館館長賞 木村光宏
(特別賞) 日立金属賞 上山陽三



「特別賞」駐日ポーランド共和国大使賞 上山陽三

NEWS & TOPICS

ふるさと納税の返礼「刀剣の取り扱い」が、即日完売

ふるさと納税の税収アップを狙って各自治体がユニークな返礼品を用意する中、三重県桑名市が特産品などのモノだけではなく、体験型のコトを用意し、話題を呼んでいる。

その一つ「刀剣の取り扱い体験」は、同市に二万円以上のふるさと納税(寄付)をした人が選べ、市博物館の学芸員の指導で、手入れや鑑賞の仕方を学ぶというもの。三月十一日の午前と午後の二回、計六人限定で参加できることとし、二月十六日午前十時に受け付けを

始めたところ、ツイッターなどで話題になったこともあって午後〇時半ごろに「完売」となった。市では第二弾も検討するという。返礼品に体験型を加えるきっかけとなったのは、昨年十一月に開催した地域の魅力を発信するイベント「桑名本物力博覧会」だ。中でも刀剣の取り扱い体験は非常に好評だったことから、ふるさと納税と組み合わせれば、観光客の呼び込みにも使えると見込んだ。体験型としてはほかに、重要文

化財六華苑でプロのカメラマンによる思い出撮影(八万円以上)や明治・大正期の文化に浸る「ハイクラスの衣装を着て六華苑散策&Roccaでランチ」(三万円以上)も用意した。いずれも通年企画。市では「ふるさと納税を機に、多くの人に桑名に足を運んでほしい」と期待している。

総務省の要請を受けて、お得意のある資産性の高い返礼品は除外される傾向の中、これからのふるさと納税はアイデア競争になりそうだ。

催事情報

都城歴史資料館

〒885-0083 宮崎県都城市都島町803 (城山公園内)
☎0986-25-8011 http://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp

企画展「日本刀の世界～後世に伝えたい技と美～」

わが国を代表する美術工芸品で、世界から「鉄の芸術」と評価される日本刀。本展では、都城の刀工によって鍛えられた古刀や新刀を中心に、国貞(2代)・祐定などの刀剣も展示します。併せて、拵・鐔・小柄・目貫など刀装具も展示し、日本刀の魅力をお伝えします。
会期：3月9日(金)～4月22日(日) 月曜休館
関連行事：刀剣講座「日本刀の魅力」
3月25日(日)・4月8日(日)14:00～16:00
※詳細は都城市教育委員会文化財課(☎0986-23-9547)まで



薬師寺

〒630-8563 奈良市西ノ京町457
☎0742-33-6001 http://www.nara-yakushiji.com/

噂の刀展Ⅲ

(一財)日本刀剣博物技術研究財団・(株)プレストシープのご協力により、昨今の刀剣ブームで話題となっている数々の刀剣を特別展示します。
主な展示品：構成・展示品は変更となる場合があります。
秘伝：不動明王坐像(江戸時代)・四天王立像(東塔安置、平安時代)
村正・左文字とその一門・同田貫・長曾祢虎徹・清麿・長谷部・和泉守兼定(之定)・和泉守兼定(11代)・国広・加州清光・大和守安定・伝沖田総司の所持刀剣正繁・陸奥守吉行・二字国俊・来国行・不動国行写し・五条国永・長光・景光・一・真田幸村の所持刀剣正宗・ソハヤノツルキ写しなど80点以上を展示予定
会期：平成30年2月8日(木)～4月8日(日)
会場：薬師寺 聚宝館



毛利博物館

〒747-0023 山口県防府市多々良1-15-1
☎0835-22-0001 http://www.c-able.ne.jp/~mouri-m/

企画展「お雛さま」

女の子の幸せを願う「桃の節句」に合わせ、恒例となりました毛利家のお雛さまを公開します。今回は、明治維新から150年を経た記念の年であることから、幕末維新の激動をくぐり抜けた、長州(萩)藩主毛利敬親の夫人美姫所用の「有職雛」と「次郎左衛門雛」を併せて公開します。そのほか、大名家の婚礼道具を小さく模した雛道具も展示します。



島田市博物館

〒427-0037 静岡県島田市河原1-5-50
☎0547-37-1000 http://shimahaku.jp/

第73回企画展「音にきこゆるvol.2～島田の刀鍛冶と名刀写しの美」

古来より刀匠たちは偉大なる先人の打った名刀に憧れ、その名刀を“写す”ことで自らの腕を磨きました。新しい作風を目指しつつも名刀を写すという営みは、決して昔の出来事ではなく、現在の刀匠たちにも脈々と受け継がれています。今回の企画展は、日本各地の名刀に影響を受け、その姿を写しながら発展していった義助・助宗・広助に代表される島田鍛冶の刀剣と、現代の刀工が鍛えた「厚藤四郎」「小鳥丸」「ソハヤノツルキ」などの名刀写し一堂に展示します。
会期：3月17日(土)～4月15日(日)



第10回記念名刀鑑賞大会のご案内

刀有会(志塚徳行会長)では第10回記念名刀鑑賞大会を下記の通り開催します。埼玉県内の名刀を一堂に展示します。ご参加をお待ち申し上げます。

- 1. 日時 5月5日(土) 鑑賞会 13～16時 懇親会 18～20時
2. 会場 パレスホテル大宮
さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ☎048-647-3300
3. 会費 鑑賞会 8,000円(図録代を含む)
懇親会 10,000円
宿泊 シングル13,000円 ツイン23,000円
4. 展示作品 刀剣30～35振 刀装・小道具10～15点
5. 申し込み締め切り 4月10日
6. 申し込み先 事務局・小島寛
〒367-0214 埼玉県本庄市児玉町小平34-2
☎0495-72-3942 FAX0495-72-5740

森記念秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町1-3-6
☎076-425-5700 http://www.mori-shusui-museum.jp/

日本刀 地鉄の秘密 刃文の不思議

日本刀は、武器として生まれ発達してきました。その一方で、日本刀は高位の者に対する献上物や家臣への褒美など、主に武士や貴族の間では贈答品の一つとして盛んに用いられてきました。また寺社への奉納品など、神聖なものとしても扱われています。これは日本刀が単に武器としての実用性だけではなく、武士や貴族の表道具として「美」を追求した存在であったからです。さらに今日、日本刀は「鉄の芸術」と呼ばれ、その審美性の高さから世界中の美術愛好家からも注目されています。
今回の展示では、刀工が鍛錬することで表れた鉄の層が織りなす「地鉄」と呼ばれる文様や、焼入れによって作られ刃先に浮かび上がる「刃文」の美しい形と輝きなど、日本刀の審美的な見どころにスポットを当て、その奥深い魅力をわかりやすくご紹介いたします。
日本刀には地鉄や刃文が同じものは一つとしてなく、刀が作られた時代や地域、刀工によってさまざまなバリエーションが存在します。刀身をキャンバスに見立て、高度な審美性を日本刀の中に織り込んだ刀工の名作をご覧ください。
会期：1月5日(金)～5月27日(日) 月曜休館(祝日の場合は開館、翌日休館)

鉄」と呼ばれる文様や、焼入れによって作られ刃先に浮かび上がる「刃文」の美しい形と輝きなど、日本刀の審美的な見どころにスポットを当て、その奥深い魅力をわかりやすくご紹介いたします。

日本刀には地鉄や刃文が同じものは一つとしてなく、刀が作られた時代や地域、刀工によってさまざまなバリエーションが存在します。刀身をキャンバスに見立て、高度な審美性を日本刀の中に織り込んだ刀工の名作をご覧ください。

会期：1月5日(金)～5月27日(日) 月曜休館(祝日の場合は開館、翌日休館)

香雪美術館

〒658-0048 兵庫県神戸市東灘区御影郡家2-12-1
☎078-841-0652 http://www.kosetsu-museum.or.jp/

コレクション展「刃金の美—刀剣・甲冑名品展—」

香雪美術館は『朝日新聞』の創立者、村山龍平(1850～1933、号香雪)が集めた美術工芸品を収蔵し、昭和48年(1973)に開館しました。コレクションは武具・仏教美術から書画・茶道具に至る、日本・東洋古美術の各ジャンルを網羅しています。
村山龍平の美術品収集は、まず刀剣から始まりました。伊勢国田丸藩(現在の三重県度会郡玉城町)の藩士の家の出身で父守雄の影響もあり、青年時代には伊勢の刀匠を訪ね歩き、京都や大阪の刀剣鑑定会には

必ず出席し、時には刀剣商にも出向くほどでした。特に古刀を好み、当初の状態をとどめた「その時代そのままのもの」を重視し、「地鉄」と「姿」にこだわったと言われます。

本展では、村山龍平コレクションの中より重文「太刀 銘正恒」(鎌倉時代)や、「太刀 銘江州甘呂俊長」(南北朝時代)などの刀剣、甲冑の名品を、京都国立博物館所蔵の作品と併せてご紹介いたします。

会期：3月1日(木)～4月8日(日) 月曜休館

NEWS & TOPICS

日本刀鍛錬塾の伝統を伝える関鍛冶伝承館

関鍛冶伝承館(〒501-3887 岐阜県関市南春日町9-1 ☎0575-2333895)で1月20日(土)から3月26日(月)まで開催されている館蔵品展「関鍛冶伝承館への贈り物」が、あらためて当地の歴史に光を当てるものと話題を呼んでいる。
収蔵庫に眠っていた鍛冶道具や刀剣・刀匠にまつわる資料、寄贈品などを展示するが、中には、昭和初期に開設された刀工を育成するための「日本刀鍛錬塾」の関係資料もある。冒頭に「魂の聖地」と書かれ、続いて「日本精神ヲ忘ル勿レ」など塾生の心構えが記されている。
初公開されたのは、日本刀鍛錬塾の看板。冒頭に「魂の聖地」と書かれ、続いて「日本精神ヲ忘ル勿レ」など塾生の心構えが記されている。



日本刀鍛錬塾塾長の渡辺兼永師(右)と塾生の金子孫六

り日本刀の製作が禁止されたのに伴い閉鎖された。現在の関鍛冶伝承館は、その跡地に建つ。また、関市出身の洋画家・三浦勝治氏(1917～2016)が、同市で毎年開かれている刀祖祭で美演される古式日本刀鍛錬の様子を写したスケッチを展示。ほかに、「志津三郎兼氏の商号で小刀やカミソリを製作していた福地家から寄贈された小刀鍛冶道具や、愛媛県西条市の今井家から廃業後に寄贈された「今井刀匠鍛冶道具」、明治時代に大隈重信が刀を造った関鍛冶への礼状なども紹介されている。
刀剣も十数振展示されている。
なお、同館では関鍛冶の歴史や刀装具など、貴重な資料を常に公開している。刀剣展示室には、関を代表する刀工、兼元や兼定らの作品が、二階にはハサミや包丁など近現代の刃物製品、カスターナイフ作家のナイフコレクションのほか、国内外のナイフ作家の作品が一堂に展示されている。また、毎月、近在の刀匠や刀職らの実演も見学することができる。火曜休館。

お知らせ

品触れ

左記につき照会がありましたので、お知らせします。お心当たりがありましたら、直ちに連絡をお願いいたします。

- ①短刀 長さ二九・五cm 目釘穴二 銘 奥大和守平長朝臣元平文化二 巳秋 大阪第四〇九一三号 昭和三十八年五月七日交付
②短刀(現代刀) 長さ三三・六cm 銘 勝沼住行郷 山梨第二三〇六一号 平成二十八年五月九日交付
連絡先 警視庁東大和警察署 刑事組織犯罪対策課 盗犯捜査第二係 ☎〇四二五六六〇一一〇

訂正

本紙前号の記事中、米野純夫様の訃報に誤りがありました。正しくは「享年七十九」です。お詫びして訂正します。